

平成23年

季刊

春季号

Vol.37

亞東



社団法人亜東親善協会平成23年新春互礼会：佐藤正久参議院議員



社団法人亜東親善協会

The East Asian Friendship Association

社団法人 亜東親善協会の概要

名称 社団法人 亜東親善協会

(英文名 The East Asian Friendship Association)

事務所 東京都千代田区平河町二一七―五 砂防会館四階

(必要に応じ支部を設ける)

目的 会員相互の親睦並びに我が国とアジア諸国との

経済、文化の提携、交流を通じ、友好親善の増進を図る。

事業

① 我が国とアジア地域諸国との政治、経済、文化に関する調査研究及び講演会、研究会の開催並びに研究資料の出版

② 我が国とアジア地域諸国との文化、芸術の相互の紹介

③ 我が国とアジア地域諸国との経済協力の推進に必要な情報の収集及び斡旋

④ 我が国に在住するアジア地域諸国民の生活相談

⑤ アジア地域諸国からの在日留学生にたいする進学の斡旋

⑥ その他本会の目的を達成するために必要な事業

季刊「亜東」二〇一一年 春季号(第三十七号)

亜東親善協会の概要 ・ 目次 ・ ・ ・ ・ ・ 二頁

東日本大地震お見舞い 事務局 三頁

東日本大地震に遭遇して 玉澤徳一郎 四頁

辛亥革命と日本 社団法人亜東親善協会会長 馮 寄台 六頁

辛亥革命 台北駐日経済文化代表處・代表 大江康弘 八頁

社団法人亜東親善協会副会長・参議院議員 事務局 一四頁

社団法人亜東親善協会新年互礼会 事務局 二二頁

海外美術品等公開促進法承認可決 参議院議員講演録 事務局 二六頁

議案要旨・参議院文教科学委員会議事録 事務局 二七頁

社団法人亜東親善協会顧問・役員名簿 事務局 二七頁

お知らせ・編集後記 事務局 二七頁

このたびの東日本大震災におきまして、亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。皆様の安全と一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

社団法人 亜東親善協会

去る三月十一日に発生した、東日本大震災は未曾有のマグニチュード九、東北沿岸部は大津波に襲われ一瞬にして壊滅する災害をもたらしました。

福島第一原発は地震の後の津波の影響で冷却装置が作動しなため、原子炉は止まっただけで冷却できなくなり翌日、一号機で水素爆発が起こりました。

暴走する原発を復旧すべく、東電、警察、消防、自衛隊が作業に従事しています。日本全国よりの救援、復旧・復興活動支援の兆しは見え始めています。

世界各国・地域・国際機関から支援の手が寄せられています。

【台湾からの支援活動】

地震発生直後に救援隊の派遣を日本政府に打診していました。が、二日間待たされ羽田空港に十四日に到着した。その間に各国救援隊は被災地入りしていま

す。表向きは「現場が混乱している」との理由ですが、受け入れが決まったのは、十三日、中華人民共和国国家地震局・救援チームが到着した後の事でした。

捜索救援（内政部消防署特殊捜救）隊二十八名の出発式は、翌早朝、駐日代表處で、馮寄台代表、羅坤燦・陳調和両副代表館員等が出席し、行われ、黃博村副隊長は「全力で与えられた

任務に当たり、捜索救助の活動を立派に成し遂げたい」と語り、台湾より持ち込んだ各種機材・支援物資、隊員達の自給用の物資を積み込んだトラックと共に宮城県仙台地区に向かった。

馬英九總統は、三月十二日午前

訪台中の海部俊樹元首相に

災害に対するお見舞いと哀悼の意を表明、台湾の政府名義で、緊急義捐金・一億台湾元(約二・八億円) 寄贈を伝達された。

台湾テレビ局合同「送愛到日本 三一地震災募款晚会」冒頭に馬總統は「八八水害、九二地震の時に、日本から支援を受けた、今回の災難に際し、大いに支援すべきである」と語った

翌日十八日、紅十字会・テレビ局共催「相信希望」がメディア二十を超え生中継された。馬總統は「地震後一週間、津波、火災、原発事故が起こり、日本の被害は戦後最悪であった。しかし、日本人の我慢強い冷静沈着な行動を見て感動した」と語った。馬總統、蕭副總統始め、

頼台南市長等は会場で寄付の申し込み電話を受け、陳高雄市長、胡台中市長等与野党を超えての呼びかけ、ジュディ・オング・中田英寿氏らのチャリティーオークションも行われ、番組終了時点で約二十一億円、現在、約百億円の募金が寄せられているとのこと。

【台湾週報より】

【台湾週報より】

【台湾週報より】

東日本大地震に遭遇して

玉澤徳一郎

この度の東日本大震災に対しまして米国、台湾はじめ各国からの御支援、会員の皆さまからの御見舞をいただきましたことに心から感謝と御礼を申し上げます。

私は三月十一日の午后盛岡の自宅にて、二階の書齋にて、原稿を書いているところを大地震に襲われました。天井の電灯がぐるぐる回り、積みたてゝいた書籍が棚から投げ出され、着物を入れていた簞子が、ぐらぐら

ゆれて倒れる寸前に押えつけた。すぐストーブの火を消して対応したのだが、揺れが収まるまでかなりの時間がかゝったと思う。二階の入口の戸を開けて、おさまったらずぐ階下におりるつも

りで待つことしばし、漸くしてゆれがおさまり、二階の各部屋を見回し、階下に降りて、台

所から、書庫を見て廻ったが、一部食器がおちて割れたり、仏壇の仏様が倒れていた他は、殆ど損害なしであった。テレビをつけたら、大津波の警報が告げられ。

次男の娘が四才で保育園に迎えに行ってくれと電話があり、近くの保育園に行くと、各組ごとに、先生のもとに園児が集まって恐怖におびえていた。父兄がそれぞれ迎えに来ていた。自宅に帰ったのが午后四時。

外出していた妻から電話があり、これからすぐもどると云ってきたが、ほんの十五分位のところにいるのに、停電になったため、鉄道の遮断機が止つたり、交通信号が消えたため車の大渋

滞が起こり、帰宅したのは六時半であった。

次男夫妻が来たのは夜の八時頃であった。都市ガスがとまり、暖がとれないためかねて用意してあった反射式灯油ストーブを出してきて使った。明りは、ロソクをつけ、丸い電池式の電灯を柱に下げて用いた。食事は残りものを集めて間に合わせ。

震度四以上の余震が続くので、息子家族は帰宅させず、食堂兼居間の大テーブルの下にふとんをして、衣服をしつかりきて、三夜四日過ごした。

幸いにして、四日目から電気が通じ、都市ガスももどってきた。水道は、この間夜一度だけ断水したが、あとは元通りになった。しかし、隣の町内一帯は、断水となり一部の人々が公民館

に避難された。

他に、盛岡市を中心として、交通路が、すべて機能マヒとなり、新幹線及びJ.R、高長距離バスなど、すべて停つたため、旅行中の人々も市立体育館などに避難所をつくりそこで数日過ごしていたといたようである。

内陸の県中央部の状況は以上のような状態で、まもなく普通の状況に戻ったが、ガソリン不足、灯油不足で四時間もならんで二千円分を買い求めるといふ状態が続いており、(三月二十九日現在)電話も漸く一週間位で東京とつながるようになった。

悲惨をきわめたのは、沿岸の市町村である。昭和八年(一九三三年)来の大津波に襲われた。岩手は、南北二百三十kmの海岸線が、全部津波に巻きこまれた。

とくに私の生れ故郷である田老町（現宮古市田老町）は、明治二十九年と昭和八年の津波襲来によって、町内の平坦部一帯が全滅した。

それから幾十年かけて復興を果たし、津波を防ぐための町内を城壁のような防浪堤（総延長四、五km）で囲み、私が中学生の頃には、三M位の高さであったものが、今では十Mまで高くなり、世界一の防災の町といわれてきた。

そして、毎年三月三日の被災の日には、町をあげて午前五時を期して避難訓練を行ってきた。しかし、防浪堤が十メートルの高さになっても、昭和八年に被災した故老は、これでも十分ではないと云っていた。

私にとって、不覚であったの

は、大地震に見舞われたのに津波が来ると自覚しなかったことです。

三月三日のおひなまつりの後に何回も震度三〜四位の地震があったが、いつもTVでは津波の心配はありませんと放送されていた。当時はこれだけの揺れにもかかわらず津波はこないだろうと思っただけではなからうと思う。

ところが実際には、TVで「大津波がきます、すぐ避難して下さい」と報じた。その直後に襲ってきたようである。報道では、地震があつてから二十八分後に津波がきたと報じられているが、実際にはもっと早かつたのではないかと思う。

発災して四日後、被災地を訪れた際に、生きのびた従兄弟は、

津波が襲来した模様について次のように語ってくれた。

第一波がきたのがみえたが、十Mの防浪堤がなんとかしのいのようにみえたが、第二波が、第一波の波の上を十M位できたのが、軽々と防浪堤をこえて、町を襲ったという。

町には、海にむつかて、大小五つの川が流れているので、波は川をさかのぼって、南北の端々から山際を強力な勢いで流れこみ、この流れが町の中心部でぶつかつて渦をまき、木造の家屋は、わずか五分でまさに木端微塵となり、町は廃墟と化した。

防浪堤の外は、津波の引き波のため、すべてを海の外へもつてゆつたため、見渡す限り何もない平地となつたが、堤の内側は、水が引いても、瓦礫の山となつて残つた。

行方不明となつた人々の捜索もまだ続いている。被災者の避難生活もまだ続いている。

しかし、地域の住民は、この災害にもめげず、ふる里の復旧に向けて立ち上がっています。

私は、阪神淡路大震災の際に、村山内閣の防衛庁長官として対応し、新潟大震災の際には、党の災害特別委員長として、対応したので、その経験をもとに自民党県連を激励し、対策にあたっています。

玉澤会長の田老町の御実家は、津波により、被災し、全壊され、玉澤本家実妹ご夫妻は、お亡くなりになりました。

謹んでご冥福をお祈り致しますとともに被災された皆様から御見舞い申し上げます。

【事務局】

台北駐日経済文化代表處

代表 馮 寄台



および救援物資の寄付活動も行われ、現在は義援金募集の活動を中心に行われています。

被災地区の一日も早い復興再建が実現されることを心より願っております。

(読売新聞掲載より)

このたびの東日本大地震による津波被害、原発事故発生という未曾有の災難に日本の遭われたことに、衷心よりのお見舞いを申し上げます。

三月一日に日本に大地震が発生後、台湾の緊急救助隊はただちに出勤準備を整え、日本政府の要請に応じ、仙台地区での救助活動に参加したほか、緊急物資の提供を行ってまいりました。また同時に、台湾の国内では官民一体となり義援金の募集

を助けたい」と申し出た。

これまでに集まった義捐金は約一〇億円に上る。日本の復興にはわずかかもしれないが、これは台湾人の日本に對する心からの声援だ。

台湾人の最も好きな国は日本であり、最も信頼し一番旅行に行きたいのも日本である。われわれは今回の震災で日本が受けた痛みを深く身にしみて感じ、馬英九總統から小

学生までが「人飢己飢、人溺己溺（人の苦しみを我が身のことのように）」の精神で日本のために祈り、声援を送っている。

日本、加油（ジエヨウ）（頑張れ）！

人々は花やカードを手に日本

本の交流協会台北事務所を慰問に訪れ、小学生はコンビ

ニの募金箱におこづかいを入れ、年配者が手にあるだけの現金を持って外交部に「日本

今年、近代中国の革命家、

孫文が一九一一年に、辛亥革命により清王朝を倒し、アジアで初めての共和国である中華民国を建国して一〇〇周年となる。

孫文の一生は、日本と深いかわりがある。日本に前後九年あまり滞在し、日本の明治維新の思想的影響を受けた。日本が明治維新で近代国家として発展したことによって、西洋列強による侵略、植民地支配を回避できたとの認識に至り、中国も革命によって腐敗した清王朝を倒してこそ、近代化された新しい中国を建設できると考えたのである。

辛亥革命百年と日本、恒久的平和

受け継いだ孫文の理念
（二〇一二年三月三日 刊出）

孫文は革命のための莫大な資金を調達するため、何度も日本に来て資金を募った。その最大の支援者は孫文の親友であり、映画会社「日本活動写真」（現・日活の創始者）である梅屋庄

吉だった。梅屋氏は気前よく資金を提供し、革命の遂行に大きく貢献した。

資金援助のほかにも、孫文は宮崎滔天、頭山滿、犬飼毅ら多くの日本の友人からさまざまな革命への支援を受け、さらに山田良政は、本人が直接、革命の武装蜂起に参加して犠牲となっている。

辛亥革命の成功には、日本が重要な貢献をした。そしてこの一〇〇年来の中国近代史でも、日本とは切っても切れない関係があった。

孫文の、日本との密接な関係は、革命の大業のほかにもあり、一九一五年には宋慶齡（後に中華人民共和国国家副主席となる）との結婚披露宴を梅屋庄吉邸で行い、数多くの日本の友人に見守られ、祝福された。

革命の大業に一生をささげた二人の中国人が、万難を乗り越えて日本で結ばれたことは、殺伐とした革命の中で、一つの美談となっている。

一九二四年、孫文は亡くなる一年前に、神戸で「大アジア主義」と題する講演を行い、日本が中心として、アジアの自由、民主主義、繁栄の索引役となるよう期待を示した。

辛亥革命からこれまでの一〇〇年間、孫文が建国した中華民国は、艱難辛苦の道のりを歩んできた。

建国の初期は軍閥が割拠し、続いて日本に侵略され、中日戦争後は共産党との内戦が始まり、人々は塗炭の苦しみにあえいだ。

孫文の後継者となった蔣介石総統は、共産党に敗れた一九四九年、全中国三五省（当時）で

面積の最も小さい台湾省に撤退し、存亡の危機に直面した。

一方、毛沢東は北京で中華人民共和国を成立させ、武力で台湾を攻め落とす準備を全力で進めた。

この六〇年あまり、中国共産党政権による強大な軍事、政治外交の打撃を受けながらも、台湾は消滅しなかったばかりか、逆に自由化、民主化の政策が功を奏し、ますます成長・発展を続けている。

二〇〇八年に台湾の馬英九總統が就任して以来、「現実を直視し、相互信頼を構築し、論争を棚上げし、共にウィンウィンを創出する」の原則でこれまで対立していた兩岸（中国大陆と台湾）間によりやく平和の光が射し込んだ。

孫文は中国及びアジアの民主主義を推進していただけではなく、人類の恒久的平和を構築することを最大の願望としていた。

そして、今の台湾は見事に孫文の民主主義理念を実行していると共に、兩岸の平和と繁栄にも努力している。これから、兩岸の人たちがもつと知恵を出し合つてこそ、共に尊敬している孫文の理念はさらに実現できるのではなからうか。

今年、台湾では、辛亥革命と中華民国建国一〇〇周年のさまざまなイベントを計画している。われわれ台北駐日経済文化代表處は、辛亥革命にゆかりの深い日本で、華僑たちとともに、日本各地でお祝いの行事を行う。

ぜひ日本の皆さまとともに、この記念のイベントを一緒にお祝いたいと思っている。

社団法人亜東親善協会副会長

参議院議員 大江康弘

この度の東日本大震災において、お亡くなりになられた方々に心より御冥福をお祈り申し上げます。

また、被災されました方々にお見舞い申し上げますと共に、今尚、行方の分からない皆様の一人でも多くのご無事をお祈り申し上げます。

当協会の玉澤会長のご親戚も被災されお亡くなりになられたとの事であり、大変心が痛みます。

我々が今、やらなければならぬことは、大変多くの課題を与えられています。もちろん早期の復旧、復興に向けて一丸となつて努力していくことは当然です。

震災後お互いが目にし、耳にした「想定外」「未曾有」という言葉を聞かされ続けてきました。

想定外の地震、想定外の津波、想定外の原子力放射能漏れ等、今も使われ続けています。

確かにそうであっても、政治や行政の現場で、その言葉でもって今回の大震災において全て許されるのか。政治や行政の場においては、どんな時でも「想定内」で問題解決を図る対応策を万全なものにしておくということではなければなりません。

余りにも被害の甚大さに「想定外」という言葉が全てに免責を与えるとは勘違いをしないこと、これが、政治家や行政担当者が今、肝に銘じなければいけないと思います。

只、思った通り残念なのは予想された通り「想定内」であったことは、今の政権の「危機管理能力」や「政権運営能力」のなさであります。案の定、危惧したように、震災後の対応は右

往左往で全く人災と言つてよいくらいの情けない対応でした。このような政権しか持てなかつたことも不幸なことと言わざるを得ません。

一年半前に「政権交代」を叫び、国民の圧倒的な支持で政権についた民主党でしたが、結局は政権担当の準備もせず、経験も浅く、また日頃より役所や官僚、役人を目の敵にして批判をし、彼等と信頼関係が構築できず、結果として霞ヶ関の知恵・知識を十分に借りることができなかつたことが、この非常時の対応を遅らせた原因でもあると言えるでしょう。

民主主義の社会においては、「政治家を選ぶ」という最も基本的なことは有権者の見る目、選ぶ目であり、大きな責任があると思います。いたずらにムードに流されず、マスコミの報道を鵜呑みにせず、しっかりと自

分の意志で選択をすることが求められます。

我々は多くの尊い命を亡くした今回のこの災害にしっかりと学び、教訓として受け止め、今後に活かしていくことが、犠牲者の皆様方へのお答えすることでもあると思います。

辛亥革命

さて、今年は辛亥革命の勃発から丁度百年という大きな節目の年を迎え、台湾や世界の華人の人々にとつては特別な年となる。この辛亥革命の「本家争い」を今、台湾と中国大陸とで演じているが、もちろん「台湾」がその本家筋としての正統性を伝承する唯一無二の国家であると思つている。

その「正統性」を主張している中国でさえも国内において四

つの都市で「本家争い」を繰り広げている。北京語で口火を切ったことを意味する「首義」の

武昌は現在、武漢市の一部であるが、(当時この清国湖北省武昌域内で湖北清軍が反政府の暴動を起こしたが、これはその前には四川省において清朝政府の鉄道国有化に反対する運動が暴徒化した「四川暴動」が起き、この鎮庄のため清政府が武昌駐屯軍二個師団を送り出し、その間に武昌に残った清軍の革命派が反乱を起こしたのがきっかけである。文字通りその後、清朝を倒し、アジアにおいて初めて共和国を建設した辛亥革命の幕開けと言える。

清朝は一七世紀半ば満州族が清国本土に攻め込み、全国制覇し以後三世紀に渡り清国に君臨した中央集権的な専制王朝である。(この武昌においては三億人民元(約三七億円)を投じて辛亥革命博物館を建設し、本年(二〇一一年)四月にはオープン予定という。

また、孫文の故郷に近い広東省の「広州」では武装蜂起は失敗に終わったが、一八九五年に中国本土で最初である武装蜂起

「広州起義」が起きた地で、辛亥革命は広州で始まり武昌蜂起は広州での延長線上であると主張し広州市内に記念館の建設を進めているという。

また、南京市は辛亥革命後、中華民国政府が樹立され(一九二二年)総統府がおかれた首都であり、南京市郊外の山稜には孫文の陸墓「中山陵」があり、日本人の有力な孫文支援者であった「梅屋庄吉」が制作した孫文の銅像が文革期には撤去されたが改めて、南京市内に立ち上げられ、その正統性を主張している。

そして四番目は上海である。孫文は武昌蜂起後、一ヶ月で貿易港であった上海を掌握、その

後江蘇省や浙江省へと広がっていったが孫文自身も「武昌蜂起のあとで最も反響が大きく全国に影響を与えたのは上海だった」と述べたと言われている。

今、中国大陸では「武昌、広州、南京、上海」の四大都市が本家争いを演じているが、果たして、現在の共産中国が、軍備の近代化や増強を進め、覇権国家として帝国主義国家に変貌しているこの国に、元はと言えば「民衆に自由を」と言つて皇帝政治を続けてきた専制国家を否定し、清朝を倒し始めた辛亥革命の本来の意義を考えれば、民主主義制度のない、共産党一党独裁で帝国主義覇権国家を目指している中国には、辛亥革命百年を祝う「正統性」は全くと言っていいほど無い。

中華民国は馬政権が誕生して三年、中国人観光客の開放、三通(通信、通航、通商の自由)も

完全実現し、また、昨年六月には自由貿易協定にあたる兩岸経済協力枠組み協定(ECEFA)の締結に至り、兩岸関係は急速に改善しているように見えるが、経済関係とは反対に台湾国内の民意は精神的に中国との距離は縮まっていないのが現状である。

「経済統一」をスタートさせ、次に「文化統一」そして最終は「政治統一」とステップ化させて中・台統一を進める腹つもりであり、そのツールの一つとして今年の「辛亥革命百周年」は中国大陸にとって「中台は一つ」という空気づくりに格好の材料であり共同記念行事まで計画しているようだが、馬英九総統もここにきて、「兩岸はそれぞれ祝えば良い。辛亥革命百周年は中華民国の建国百年、我々の立場はその建国百年を祝うものだ」と中国の申し出にははつきりと「不(フー)」と表明、これは中国の統一戦略には取り込まれない

い事をしつかりと意志表明した台湾側の確固たるメッセージと言える。

さて、ここで日本と辛亥革命について少し触れてみたい。明治維新と比べられることも多いが、一八六八年の明治維新から遅れること四三年、日本は孫文達、革命派の人々には物心両面にわたる支援や貢献は大なるものがあつた。まず支援者としては巨額の私財をなげうって孫文を助け続けた「梅屋庄吉」、一九〇〇年の「惠州起義」の戦いで亡くなった「山田良政」、親友として厚い信頼を置かれた「宮崎滔天（とうてん）」また、辛亥革命そのものへの貢献者としては北一輝、大隅重信、尾崎行雄、頭山滿等、多くの知名度のある人々が協力している。

また、孫文は神戸において「西洋の霸道か、東洋の王道か」と日本人に向けて一つの問いを發

し、心から日中連携を求めたが、不幸にもその後日中は開戦へと進み、孫文の思いは残念ながら裏切られることになっていく。

孫文は西洋的な教育を受けた革命家であつた。彼が見る中国は泰平を現出した清朝治下の時代、人民にとつて皇帝政治の帝力・権力は彼等にとつて全く関係なくその政治に関わらないことが満足な境遇とされていた。人民と皇帝との関係は、人民は「租税」を納めることだけであり、租税さえ納めれば自分達は責任を果たしたと思つていた。

また、政府も人民が租税さえ納めれば他のことは構わず、その為中国人民の政治思想は極めて薄弱であつた。このような社会に立脚すれば皇帝政治の必要はなく、中国にとつては共和制の実施こそが理想と説いた。

しかし、「三民主義」で説いた共和移行への実施後も、彼が理想とする革命は達成されずそ

の根本的な原因として、中国の人民には「家族主義」と「宗族主義」はあつても「国族・民族主義」すなわちなシヨナリズムがないことを指摘し、その理由として「清朝時代」の統治形態に由来し、当時の人民が政治と切り離され、「なんら関係ない」立場、境遇に永らくおかれたため「人民の政治思想は薄弱」となり、国家の元に結集・団結できず、外国に対して伍する国家には出来できなかったと考える。

辛亥革命に至る孫文や中国の革命家達に最も大きな影響を与えたのが、日露戦争（一九〇四年二月〜一九〇五年九月）における日本の勝利と言えよう。白人に対する有色人種である日本人、また、専制政治に対する立憲政体を持つ日本の勝利は、アジア諸国に多大な影響を与え、列強に植民地化されていく国々にとつては、日本に倣うことが

自らの国を救い富強を実現していくこととの意識を生んだ。

日本への留学も増え、日本を経由して西洋の知識や文物がアジアへと流れていったといわれている。この日露戦争から遡ること一〇年前、日清戦争（一八九四年〜一八九五年）の日本の勝利も世界を驚かせたが、なんと言つてもこの時代の前後は中国（清朝）において、人民が西洋的な国家観念に目覚めていた時期でもある。

李鴻章は袁世凱に指示し、朝鮮の従属化を進めていたが、ロシア、イギリスを巻き込み朝鮮半島はそれぞれの国が、睨み合う構図になっていた。そして、一八九四年の春、朝鮮の新興宗教である秘密結社の東学党が乱を起こす（東学党の乱）この時に朝鮮政府が李鴻章に援軍を依頼、このことが、日本が出兵する引き金となつて結果、日清戦争へと繋がっていく。

日清戦争の勝利後の下関条約において三国干渉（ロシア・フランス・ドイツ）による遼東半島の清国への還付は、李鴻章や清朝政府のロシア取り込みの戦略で、これは功を奏したが、このロシアのその後の勢力拡大路線がイギリスの清朝離反を促し、親日路線への転換は、その後の義和団事変後（一九〇〇年）、日英同盟（一九〇二年）の締結へと進んでいく。

この義和団事変に至る背景は日清戦争後、列強による中国の分割は益々進み、「扶清滅洋」を唱えて、それに対する人民の危機感が内政革命の動きと排外の気運の盛り上がりへと続き華北において外国人への襲撃を繰り返していた秘密結社の義和団が清朝政府と結びついて、一九〇〇年列強に宣戦布告、八カ国連合と戦ったが大敗し、義和団事変の際に是非言っておきたいことは、八カ国連合軍の中でも

日本の軍隊は軍紀厳正、大変評判も良く、なかでも沈着冷静な働きをみせたのは日本陸軍の駐在武官であった柴五郎中佐である。禄高二八〇石の会津藩士の五男坊であり、一〇才の時戊辰戦争に際会し苦難を味わう。その後、薩長政府が作った陸軍幼年学校に入り、以後、才覚を認められ陸軍軍人として頭角を現していく。

日英同盟（一九〇二年）の締結の理由は、英国としては戦略的なものも含めて色々あるが、この義和団事変の際の規律高い日本陸軍の行動も、英国に与えた印象が大きかったと言われている。当時の人口一人あたり銀一両、総額四億五千万両もの賠償金を含む、北京議定書を受諾せねばならず、同時にこの後、国際的において中国の従属的立場が確定した。李鴻章は北京議定書調印後、まもなく死去、一九世紀から二〇世紀へと移行する

中、時代も次へと進む。

この義和団事変は清朝国内において人民や革命家達に対して大きな影響を与え、同時に政府の権威失墜はそれまでの既成概念を大きく変えるきっかけとなる。儒教的な世界観に基づく自尊意識（中華思想）はナショナリズム的な観念へと転化、中国の亡国を救い主権を保持していくためには愛国主義、民族主義であるとの意識が目覚め、この動きは活発で、清朝政府を倒すという革命行動に繋がっていく。

そして、勃発した日露戦争の日本の勝利は中国国内の革命家達の背中を強く押すこととなり、その後の辛亥革命へと繋がっていく。当時の国際環境の生み出す必然性とはいえ、中国と日本は共に有色人種であり、かたや列強の支配を受け、かたやその支配をはねのけてきた両国にとっては、力が支配する時代に

において、その後の歩む方向が自ずと違っていくことは、少なからず予想されたとは言え、孫文も求めた日中友好への道も閉ざされ互いが全面戦争へとつき進んでいく結果は誠に残念であると言わざるを得ない。

しかし幸いにも、今日、歴史的な大きな節目を迎えた台湾と日本の関係は過去のどの時代よりも友好的で信頼関係が強くなっていると言われている。この事は、双方の政治家の努力は言うまでもないが、いつの世も政治の隙間を埋め、時には政治的対立で溝をつくることがあっても、その溝をそれ以上深くなるのを止め、補ってくれる存在がそれぞれの国の国民（民間人）である。この人達の日頃の弛まざる努力や苦勞の積み重ねがあつて、初めて友好が本物となる。この事実を政治家は肝に銘じ重く受け止めるべきである。

新春互礼会

平成二十三年二月十五日(火曜日)
於 ホテル・ルポール麹町

互礼会に先立ち、第一次イラク復興業務支援隊長として活躍し現在は参議院議員である佐藤正久氏が「私たちの守るべきもの」と題し講演を行った。

「日本は個人主義に走っているが、これは他国との関係をゆがめ、日本が世界に置いて行かれ埋没していくことにつながる。日本の良き伝統的価値観を守ることが大切である」と語った。
(講演記録は、別頁に掲載)

互礼会には、日本側から畠中篤・交流協会理事長、公務ご多忙のなか、台湾との交流を積極的に進めている前・現国会議員各位(小池百合子・高市早苗・村田吉隆衆議員議員、岩城光英・大江康弘、佐藤正久参議院



議員、愛知和男・橘康太郎・並木正芳前議員、代理含む。)が出席されました。
台湾側から馮寄台・台北駐日経済文化代表處代表、並びに駐日代表處関係者、各華僑団体の関係者、在日の台湾人留学生ら日台間の友好交流促進にご尽力戴いている日台双方の関係者が多数ご出席され華やかに催された。

玉澤会長は、「亜東親善協会は、アジアの平和を守るため設立されたものである。更には、日本と中華民国が国交を断絶した時に、国と国との交わりはなくなっても、双方の国民と国民との間における友情と信頼は必ず存在するものであるとして、アジアにおける中華民国との友好を進めている」と述べた。

馮寄台・台北駐日経済文化代表處代表は、「この二年間、我々新政府と日本との間で、誠実な信頼感が築き上げられ、双方の交流もこの信頼感の下でさらに密接になった」と強調し、この間における台湾の駐日代表處札幌分處の開設、ワーキングホリデーの発効、松山・羽田間の直行便就航、日本に居留する台湾人の外国人居留カードの国籍蘭が「中国」から「台湾」へと表記変更されることなどの実例を挙げた。更に、日台双方の貿易



状況および観光客数が好調な伸びを示していることも紹介した。

また、「昨年は台湾から約五〇名の立法委員が日本を訪問し、日本からも約一〇〇名の国会議員が台湾を訪問した。我々新政府はこの二年間、中国大陸との関係を改善し、他の国々との関係も徐々に前進してきた。たと

えば英国、アイルランド、カナダの国々へ台湾人はノービザで入国できるようになった。今年一月一日からは、E.U三五の国と地域にもノービザで行けるようになった」と述べた。

更に馮寄台代表は、一九一一年の辛亥革命により、中華民国が樹立され、今年でちょうど一〇〇年になると紹介し「今年台湾では、辛亥革命と建国一〇〇周年のさまざまなイベントを計画している。我々駐日代表處でも辛亥革命にゆかりのある日本で、華僑たちと共に各地で祝賀の記念行事を行う予定であるので、ぜひ皆さんと共にその記念のイベントを祝いたい」と挨拶された。

続いて財団法人交流協会理事 長・畠中篤理事長が「昨年、日台間にはいろいろな進展があった。なかでも羽田・松山間の直

行便開設については、便利になり、双方間の距離が近くなったと実感していただいていると思う。現在も双方間の実務的交流が行われている。例えば、台風や地震などの土砂災害防止についての技術交流が始まっている。そのほかにも、台湾では日本の政治、経済を熟知した新たな人材を育成する目的で、現在、台湾の主要大学に四ヶ所日本語研究センターが開設されており、交流協会でもこの新しい人材育成に協力していくものである」と述べられた。

また、「今年には辛亥革命一〇〇周年、中華民国建国一〇〇年にあたるが、日台双方でいろいろな記念イベントが行われるが、我々はこの機会に更に日台の交流が深まるように期待している。交流協会も更に日台関係を促進していくために努力していきたい」との考え方を示された。

司会・藤山雅康監事から、中華民国国父・孫文先生の孫に当たる宮川東一様を紹介され、挨拶を戴いた。



ます。羽田・松山間の路線就航で、日台間の信頼関係が着々と進んでおり、活発な人的・文化交流が両国間で続いています。このような日々の交流の積み重ねこそ、互いの絆作りに貢献していくものであり、更に日台両国間の距離が縮まっていくことと思います。これからも日本にとって大切な国である台湾との友好、親善の為に努力していきたいと存じます」と述べられ、祝宴に入りました。

宴なかば、留日台湾人留學生が登壇し、出身地、所属大学等の自己紹介があり、玉澤会長はじめ、顧問国會議員との記念撮影が行われた。

中締めは、恒例により、副会長・張碧華理事による一本締めでお開きとなりました。

参加者は事務局を含め、一〇〇名となり、大盛会でありました。

乾杯の音頭は、弊協会副会長、大江康弘参議院議員。馮寄台閣下始め、出席顧問が登壇され、「今年には、中華民国建国一〇〇年、亞東親善協会設立四〇周年記念の年、心より慶賀申し上げます

新春互礼会・記念講演記録
「私たちの守るべきもの」

自由民主党参議院議員

佐藤 正久 先生

亜東親善協会の皆様、こんにちは。

本日は亜東親善協会新春互例会に、お招きいただきありがとうございます。

また、亜東親善協会におかれましては、昨年で設立六〇周年をお迎えになり、本年は中華民国建国一〇〇年を迎えるということで、重ねてお祝い申し上げます。

●政治家の信念と政策実現力

今、全国を回って感じることは、政治に対する国民からの信頼がどんどん薄れていっているということです。その

原因は、政治家の言葉に信念がない、また、政策に実現力がないと思われることです。

政策実現力の観点からいうと、現政権の一年前のマニフエストと今の状況を検証してみると、いろんなものが違います。ガソリンは二五円安くなっていますし、軽油も一七円安くなるはずがなっていない。子供手当ては国民からも反対され、高速道路の無料化も実現されていない。挙げたらきりがありませんが、こうなってしまうと政策実現能力に疑問符がつき、信頼されません。

民主党は「コンクリートから人へ」というキャッチフレーズで、八ツ場ダムの建設工事を中止しました。しかし、八ツ場ダムは貯水機能の面から非常に大事なのです。

実際、荒川や、利根川流域では河川よりも低い所にいっぱい家があります。そして、大臣が交替して「八ツ場ダムを中止したのを止める」ということになりました。

鳩山前総理は総理大臣を辞めるときに「議員も辞める」と言っていたのに、「議員を辞めるのを止めた」と撤回しました。言葉がおかしくなりました。言葉がなくなりました。与謝野経済財政大臣は、「元自民党です」「自民党も民主党もだめだ」ということで「立ち上がれ日本」をつくりました。ところが、民主党から大臣の椅子を見せられて座ってしまいました。もう立ち上がることができないでしょう。

政治家の姿勢、言葉、政策実現能力、これがしっかりしていないと、結果はできません。政治家としての本当の信念と、

軸というものがないと、本当の結果は出せません。

国民は「自民党でも民主党でもどこでもいいから、まじめに政治をやってくれ。われわれの額の汗、苦しみ、それを自分の汗、苦しみだと思つて、まじめに政治をやってくれ。もう、パフオーマスなんかはいらない」という声が圧倒的に多いのです。だから、民主党の支持率が下がっても自民党の支持率は上がらない。「昔の自民党は駄目。今の民主党は無理」だと。駄目と無理がガチャガチャやっても、結果は出ない、ということですよ。

●韓国・延坪島砲撃から学ぶこと

さて、私、一月一四日に韓

国の延坪島へ行って来ました。一月二三日に北朝鮮から砲撃された島です。砲撃をされてから約五〇日が経っていましたが、そこにはパフォーマスなんかは一切通用しない、島民の生活と命がありました。まさに「国防が最大の福祉」である現場です。まさに国境の島です。砲撃された現場は、焼けただたれ、壊れた家もそのまま、不発弾の処分も終わっていない。なぜか。敵と対峙する方が優先順位が高いからです。国民・島民の安全を守る方が最優先です。島民は島を離れて避難しました。離島しなかった人、島に戻ってきた人もいますが、まだ安全は確保されていません。あそこを見るとコンクリートも人も両方とも大事だという現実の現場があります。

軍の施設と一般住宅地の間

には柵はありません。島全般が一つの軍事基地みたいなもので、軍の施設の間に住宅地や田んぼや畑がある、そういう感じですよ。島の周りには、防波堤みたいなものがあります。コンクリートも大事だと思います。パフォーマンという現場です。パフォーマンは通じない。まさに軍と島民がとなり合わせて島を守り、生活を守っているという現場でした。

韓国は、今回、北朝鮮から砲撃されたことを、すごく反省していました。韓国民主党は、一〇年間、太陽政策をやってきたお陰で、油断していた。隊員の気持ちの中に緩みがあった。軍事的にもまさか砲撃されるとは思っていなかったから、充分な対応をとることが出来なかった。通常、砲撃する時には気象状況を把

握するために試し撃ちをして、データをとりけれども、その試し撃ちも充分出来ていなかったし、敵の陣地を見つける

為のレーダーも機能しなかった。今回の砲撃は、韓国へのウェークアップコール、目覚まし時計だ。と言う人もいました。今、韓国はものすごく意識を変えています。もう二度とこういうことがあつてはならない、民間人に被害を出してはいけない、そういう思いです。

今まで海兵隊が守っていた所を、陸・海・空統合で防衛するなど、李大統領はリーダーとして強い指示を出しています。先月、インド洋で韓国の貨物船が海賊に襲われ、船員が拉致された事件が起きました。李大統領はものすごく怒り、特殊部隊を派遣して救

出しました。韓国の大統領は、失敗を教訓として結果を出しました。

また、韓国は民間防衛という面からも反省をしました。今回は民間人が二人亡くなりました。死傷者はたった二人、その理由は日頃から軍と国民が連携をしながら避難訓練をやっていたからです。住宅地の周りに防空壕があります。私も防空壕を見ました。中の退避する場所は入り口と直角に曲がっています。なぜこのようになってくるかというと、入り口で砲弾が破裂しても、それが中に入ってきたように退避所を作っているのです。ただし、入り口は一箇所しかなく、抜け穴がありませんでした。ということは、入り口が塞がれていたらもう逃げようがありません。また、

換気口もありませんでした。

これは気が緩んでいて基本がおろそかになっていた証拠でしょう。市内で会ったおばあちゃんに「寒かったでしょう」と聞いたら、「寒いなんてものじゃないわよ。換気口がないので、暖を取れないの」ということでした。韓国は反省を踏まえて、台湾の金門島という国境の島に研究に行きました。その感想として「台湾の国境の守りの方が韓国よりも緊張感をもってレベルが高かった」と言っていました。

これは、日本にとっても他人事ではありません。我々にも守るべき島も地域もあるのです。韓国が北朝鮮から砲撃を受けたときに、非常に残念に思ったことは、菅総理が安全保障会議を開かなかったこととです。なぜかと言うと、安

全保障会議を開かないと、国の方針が決まらないからです。つまり、年末年始にむけて、日本も北朝鮮のさらなる挑発に備えて、態勢を取らねばなりません。しかし、自衛隊、警察、消防はそれぞれ独立した指揮系統にあり、バラバラなのです。自衛隊の中でもそれぞれで認識を異にすることもあります。だから国としての方針を示すことが必要なのです。

●危機管理は想定範囲を広げること

民主党政権を見て、菅総理、仙谷官房長官、枝野幹事長らが上手く政府を動かせない理由を分析してみたいとおもいます。

一つ目は、部下を使った経験がありません。会社経営の

経験もなければ、組織として、または個人として現場の修羅場をくぐったことがないのでしょう。

二つ目は、国家観がない。国、主権、あるいは領土に対して責任を持つて考えたことがないようです。彼らは「個人の権利」を「国家権力からいかに守るのか」という運動をしてきた人たちなのです。言い換えれば、「国家は悪」であり、「悪の国家から個人を守る」と言ってきた人が総理大臣になった。こんな国家感をもった総理大臣がまともな外交や安全保障を出来るわけがないのです。国を守る、国民の生活を守るといことがどういうことなのか、菅総理には是非、韓国の延坪島や、台湾の金門島に行つて勉強してきて欲しい。

外交、安全保障、危機管理の基本は、「考えられないものを考えること」です。つまり、想定内をいかに増やすか。想定外をいかに小さくするか。これで結果は決まります。

状況の想定を設定する時に、国家感、主権、領土という認識がなければ、その想定範囲は非常に小さくなってしまいます。近隣諸国との「友愛」精神は危機管理という状況においては通用しません。百歩譲つて「友愛」という言葉を使うとき、その友愛は台湾の国境の島で、国家・国民を守るために、歯をくいしばり、命をかけて、愛する人を守る人たちに向けられるものであると思います。守るべきものがないところには愛はありません。私はそう思います。

今回の尖閣諸島沖中国漁船

衝突事件では、菅内閣の想定範囲が非常に小さかったので対応に失敗したと言えます。仙谷官房長官が「中国の船長を釈放したので、中国はもっと柔軟な対応をするだろう」と言いました。ところが、船長を釈放したら、中国は「日本が間違っていたから船長を釈放した。船をぶつけて来たのは海上保安庁だ。中国は、日本に謝罪と損害賠償を求め」と、さらに高い要求をし「これは想定外だ」と。

その後、ロシア大統領が国後島に行きました。菅内閣は「まさか行くと思わなかった。想定外だ」と。在ロシア日本大使館は「ロシアは日本からの経済援助を希望しており、来年にはウラジオストックでAPECもある。日本との関係を壊すはずがない」と踏んでいました。実は、ロシア大統領が国後島に上陸する直前には、菅総理も前原外務大臣もベトナムのハノイでロシア大統領と外務大臣と一緒に居たのです。日本側はその場で何も圧力をかけなかったから、ロシア側はスツと行ってしまった。

外交交渉においても、想定内が小さいと本当に守るべきものが守れなくなってしまう。二〇〇七年七月、新潟県中越沖地震がありました。自衛隊は災害派遣で出動しました。自衛隊は何かあれば三〇分以内に、最初の部隊が出動できる態勢を取っています。災害派遣部隊は「麻袋」を持って行きました。なぜ麻袋を持って行ったかというと、地震で蛍光灯、ガラス戸、食器棚が割れます。割れたガラスの破片は家庭用のゴミ袋では裂けてしまうので集めることが出来ません。だから、麻袋を持って行くのです。

また、自衛隊がもっているスコップは普通の市販のスコップと同じものですが、少し違いがあります。何が違うか、グラインダーで刃先を鋭く研いでいます。なぜそうするかというと、土に対する刺さり具合が良くなるのです。災害で流れてくる土砂は水を含んで重い。スコップの刺さり具合が良いと救助スピードも速くなります。

つまり、日頃から状況を想定して考えているか、考えていないかで、結果が変わってくるということなんです。

私がイラク派遣から帰って来て、一番多くうけた質問は「佐藤隊長はイラクで、決断で迷ったことがありますか」という内容です。答えは「私は決断で迷ったことはありません」決断というのはタイミングです。その時にはパンと決めないといけないのです。もたもたしていたら自分の部下・隊員の命が失われるかもしれないのです。しかし、その時に自分の運と勘で決断してはだめです。運と勘で隊員たちの命を危険にさらすわけにはいきません。ですから「こういう場合はこうだ、こういう場合はこうだ、こういう場合はこうだ」と事前準備・研究をして想定内を広く持っておくことが大事なんです。

●守るべき領土を教えなければいけない。

私は、防衛をひとつの軸として政治活動をしています。

日本は台湾と違って、六六年間戦争の緊張感がなかったため、国防・安全に対する危機感が非常に薄いのです。国民の防衛意識を超える防衛力は作れません。なぜか。国民の代表が政治家だからです。国防政策も政治家が決め責任を負います。しかし、国防が不十分なことを、国民の防衛意識のせいにはいけません。国民の防衛意識を高めることは政治家の責任だからです。

私は全国で応援演説を依頼されてお話をしますが、主催者からこう言われます。「佐藤さん、雇用・医療・年金・介護の四つでお話をしてください。時間があつたら安全保障も話していただきたい結構です」と。実際、国民の

意識は目の前の生活が優先するのは当然のことなのです。

それでも、政治家は、国を守ることの必要性を、国民に説明し、説明し、説明し尽くさねばなりません。

ところで、今の大学生は、物心ついた時から「ロシア」という国の名前を聞いているので「ソ連」という国の名前の島の名前も言えません。歯舞群島・国後島・色丹島・択捉島と名前を知っていても、位置関係までは正しく知りません。

また、北海道・本州・九州・四国を除いて、「日本で一番大きな島はどこでしょうか」と聞いて「はい、択捉島です」と答えられる人は少ないでしょう。「二番目は」「はい、国後島」と答えられる人は更に

少ないです。三番目が沖縄本島、四番目が佐渡島です。

竹島は何県にあるかご存じでしょうか。島根県の沖志摩町に属しています。地番もあります。本籍を竹島に置くことも出来ます。

尖閣諸島は報道のおかげで、沖縄県石垣市に属していることが知られるようになってきました。石垣島の北に位置していることまで正しく知られていません。二年前の話ですけれど、自民党のある女性議員に「尖閣諸島は何県にあるかご存じですか」と聞きました。女性議員は「福岡県」と答えました。「えっ、違いますよ、沖縄県ですよ」と言ったら「対馬と勘違いしました」。「対馬は長崎県ですよ……」。

沖縄県の隣は東京都だと行

ったら、皆がびつくりします。沖縄県の沖大東島の隣は東京都の沖ノ島島ですから。日本で一番ガソリンが高いのも東京です。小笠原諸島の母島でレギュラーガソリンが一リットルあたり二六一円です。母島は東京都です。島で生活するということはどんなに大変なことが分かります。

実際、自分たちが生活している地域から遠いと、強く意識することは難しくなっています。だから、教育が大切になるのです。日本地図を見ても、遠い国境の島は切り貼りされて位置関係が分からない状態になっています。A4サイズの地図帳では国境の島は省略されています。どこからどこまでがわが国を守るべき領土なのかを、しっかりと教えないといけません。

NHKの放送の最後の映像は日の丸ですが、韓国は竹島です。守るべき領土に対する意識が違います。抽象的な国旗ではなくて個別具体的な島なのです。日本は自国の領土であることを主張するために「今日の竹島の天気は晴れです」「国後島は雨です」とか、個別に天気予報をやるだけで、国民の意識が変わりません。領土問題の教育は学校だけではなく、いろんなやり方で出来るのです。

●中国海軍の太平洋進出

尖閣諸島沖で海上保安庁の船に衝突してきた中国漁船の船長はカワハギを獲るために南下してきたと言っています。普通九月にカワハギはあんな所にいません。また、調べてみたところほとんど魚は

獲っていないかったです。尖閣諸島沖には大きな漁船が二〇〇隻ちかく出ているのに魚を獲っていない。なぜか。それは、下に居る潜水艦を隠すためにきているそうです。

中国海軍が東シナ海から太平洋の方に出ようとしています。その時に日本列島、沖縄の先島諸島、台湾が邪魔になっているのです。中国海軍が太平洋に出るには、沖縄本島と宮古本島の間、あるいは種子島と奄美大島の間、台湾の脇の三つくらいしかルートはありません。その調査はもう終了しているそうです。今は元軍艦の漁業監視船というカモフラージュで海流や地下資源を調査していると思われるかもしれません。しかし、中国にとって東シナ海というのは海軍の準備行動をするための海域であって目標はここではありません。

第一列島線を越えて、第二列島線までの太平洋が中国海軍の目標なのです。

アメリカは台湾を守るために、空母を派遣するでしょう。空母には通常、潜水艦が護衛しています。中国も米空母を阻止するために潜水艦を出します。第一列島線と第二列島線の間で、沈黙の潜水艦戦が行われます。

先日、元海上保安官の一色さんと話をする機会がありました。尖閣諸島沖事件のビデオを投稿した人です。いろいろ悩んだ末の投稿と言っていました。「国境の海域でなにか起きているのかを国民に知ってほしかった。多くの国民に考えて欲しかった。ぼくはヒーローでもなんでもない。規則を破ったので処分を受けるのは当然だ。皆に迷惑を掛け

ました」と言っていました。私は一色さんに「霞ヶ関の海上保安庁ではなく、現場として尖閣諸島を海上保安庁で守れますか」と聞いたら、彼の答えはこうです。「いますぐにでも海上自衛隊に渡したいくらいです。中国の潜水艦が来たらもうお手上げだ」と。霞ヶ関の海上保安庁はそうは言わないでしょうけれど、現場はそういう状況なのです。私たち政治家は領土領海を守るために、また、領土領海を守ってくれる現場の人たちのために、島に上陸して実地調査をし、灯台を整備し、漁船が安全に航行できるように無線局を作る、あるいは環境保護のための調査など、できることをやらないといけない。

この一年半、多くの国民は「民主党政権の外交・安全保障

障は不安だ」と言っています。私も去年の一月くらいから、駅のホームで電車を待つているときに面識のない方から「佐藤さん、このままでは日本はヤバイですよ。何とかお願いしますよ」と毎日のように握手を求められるようになりました。普天間の米軍基地問題が迷走しても、ここまではありませんでした。尖閣諸島沖での中国漁船衝突事件、それに続くロシア大統領の北方領土訪問で、国民の危機意識もかなり変わってきたと肌で実感しています。

なぜ、わたしが何度も「守るべきもの」「軸」と言うかというと、「元自衛官で修羅場をくぐってきた経験があるからです。本当に苦しいときでも軸があれば踏ん張れるし、ぶれることがあっても軸があれば

ば元に戻ることができません。

私は自衛官のときにいろいろな海外経験をさせてもらいました。ゴラン高原派遣とイラク派遣の時は部下を抱えていました。日頃はあまり気にしませんが、ぶつかったり、支えあったりする仲間です。そして、私にも部下にも家族があります。自分一人だけの身ならなんとかなっても、部下の命を守らないといけない。隊員の命を案じている家族も大勢います。

我々のイラクでの活動を支えてくれた軸は家族でした。軟弱だと思われるかもしれないけれど、実際にそうだったのです。「国益」という言葉は正直、軸にはなりません。日本の国際社会における地位向上のため、日本とイラクの

関係強化のため、イラクの復興安定のためなど、いろいろ言われました。それはその通りです。でも「それで・・・それで・・・それで・・・」と繰り返して自問し、国益が自分たちの精神的な軸になるかどうかという、なりませんでした。自分たちが死ぬかもしれないという状況を前にして、繰り返して自問して導かれた軸は、家族でした。家族のために絶対帰ってくる。そのために派遣先で信頼関係を作りいい仕事をやる。これが結果として国益に繋がるんだ、と。家族という軸があるからこそ、国益という結果にむけて頑張ることができたのです。

イラクに派遣される時、マスコミの多くが「自衛隊が初めて危ない所へ行く、間違いない被害が出る」と書きま

した。隊員も情報がありませんから不安は増幅します。先遣隊が行って、まず動いて情報をとって、政府に送ります。政府はその情報を元に本隊を派遣するかどうかを決定します。しかし、情報が豊富にあるわけではありません。家族はもっと不安になります。それでも「行つてきなさい」と送り出してくれました。

見送りの時は全員の家族が来られました。小さい子供がお父さんに抱きついて離れない、小さな手で迷彩服をキュッと握っている。傍ではお母さんが下を向いて泣いている。私はグツと涙をこらえます。ああ、家族がいる、この人が奥さんだなあ、子供だなあ、恋人だなあ、と。いよいよ出発、市ヶ谷台に多くの見送りの隊員が並び、その前を見送りの家族が並び

ました。その前を、我々が敬礼して歩いてバスに向かいました。私は隊長として、リーダーとして一人ひとりの隊員の家族の顔を目に焼き付けようと思いました。ほとんどの女性には涙でした。私の女房も娘も泣いていました。なかには嗚咽を漏らしうずくまって泣いているお母様もおられました。自分のお腹を痛めて生んだ子供の顔を見ることができない。もう涙がこぼれそうになりました。でも、絶対泣いてはいけない、ここで隊長が、リーダーが泣いてしまつたら、部下は迷つてしまいますから、必死に堪えました。あとで同僚から言われました。「佐藤のあんなに怖い表情を見たことがない」と。

成田空港にも家族が見送りに来られました。そこであるお母さんから「隊長、最後に

自分の息子と一緒に写真を撮らせてください」と頼まれました。ところが、いつまでたってもシャッターが下りないのです。「どうしたのかなあ・・・」お母さんは肩が震えて、手が震えていたのです。泣いて、とてもカメラを覗けるような状態、シャッターを押せるような状態ではなかつたのです。私はハツとして、お母さんの言葉を想い出しました。「隊長、最後に自分の息子と一緒に写真を撮らせてください」・・・ああ、そういう意味の「最期」かと、単なる見送りの最後ではなく、覚悟の上の最期だとわかりました。思わず涙がこぼれてしまいました。周りを見たら、隊員皆が泣いていました。でも、あの瞬間、我々がガツとひとつになったと思えました。軸が出来たと思えました。絶対帰

ってくる、何があつても、どんなことがあつても家族の為に絶対帰ってくる。そのためにはなんでもやつてやろう。それまで何回も訓練を行つて、気持ちをひとつにしたつもりでしたけれども、あの成田空港でのお母さんの涙と言葉の意味を分かつた瞬間ほど、我々の気持ちがガツとひとつになったことはないと思いません。

日本人はすばらしい民族です。本当に危機感を持つて、ガツと固まると本当に素晴らしい力を発揮します。現地に行つて、想定内を増やすために考えて、考えて、考えて・・・これ以上考えられないくらい考えます、必死ですから。どうやつて生き延びようか、どうやつて信頼関係をつくらうかと。民生支援というのはイ

ラクの住民の真ん中に入らないと何もできません。あれほど訓練した隊員でも「怖い」と言っています。皆が敵に見えます。誰がよそ者、誰が地元の人かがわからない。誰が敵で、誰が見方がわからない。誰か一人でもお腹に爆弾を巻いてドカンとやつたら終わり。多勢に無勢という状況下で、いかに情報を取りながら信頼関係をつくるか。その時に助けてくれたのは元日本企業で働いていたイラク人です。イラン・イラク戦争の前話なのですが「日本の企業戦士には世話になった」と話してくれました。何処が危ない、何処は大丈夫だと、全て知っていますから、いろいろな情報をくれました。先輩たちには足を向けて寝られません。我々も先輩から受け継いできたものを前面に出そう、そう

でない信頼関係は生まないし、命を守れない。

自衛隊は当然日本の独立と平和、国民の生活と安全を守ります。それだけではありません。自衛隊は目に見えない価値観を守ります。日本の伝統文化、価値観です。今これまで自衛隊が海外活動で大きな被害を出していない背景には、こういう日本人らしさを前面に出しているからこそ、信頼と成功という結果が出ているのではないかと思います。台湾と日本の関係にもあてはまります。台湾は日本に非常に好意を持ってくれてます。それは日本人の目には見えませんが、台湾人の価値観があり、それを大切に受け継いでいるからだと思います。その努力の結果が、亜東親善協会という結果になって

いるのではないのでしょうか。

家族を愛せない、家族を守れない人間が地域を愛せませんか。地域を愛せない人間が国を愛せますか。国を愛せない人間が世界で貧困に苦しんでいる人に手を差し伸べられませんか。上面はできても、本当に厳しい状況になったときに、その人間に「本物の軸」があるか無いか、すぐにわかります。

お爺ちゃん・お婆ちゃん・お父ちゃん・お母ちゃんもそうであったように、みんな日が暮れるまで働き、夜なべをし、日が昇る前から働いた。そういう家族の絆と文化があったからこそ、日本がここまで成長し、今、台湾や多くの国と友好親善ができてきた。そういう日本の文化を守り受け継いでいかないといけない。

最後に、ある文書の現代語訳を読みあげます。私は、これこそ日本が今一度取り戻すべきものであり、この気持ち

がなければ、家族も、地域も、国も、周辺国との友好もできないと思うのです。

父や母に孝行を尽くし、兄弟は皆仲良くし、夫婦はお互い助け合い、

友達同士は互いに信頼し合い人に接する時は礼儀をわきま

えて接し

自分自身をつつましく行動せ

よ

また、多くの人には博愛の心を持って善行を行い

勉学に励み

仕事には精を尽くし

そして、自分の知識の向上に

努め

道徳を守っていく心を養い

自らから進んで社会公共の利

益のために力を尽くし
公の仕事をするための努力を

せよ

以上は、教育勅語です。

日本人として、先輩方が培ってきた当たり前のことが書いてあります。日本人にはこういう精神があるから、本物の軸を持つことができ、世界から尊敬される国を目指すことができるのです。

亜東親善協会の皆様も、まさにこのような精神と軸を持っているからこそ、六〇年にわたって信頼を深め、友好関係を更に広げていらつしやるのだと思います。私も皆様と共に守るべきものをしつかり守り、軸を持って、「結果」を出すべく努力をしていきます。ありがとうございます。

平成二十三年二月十五日 火曜日

海外美術品等公開促進法

様のものであります。

この法案は日本の美術館等が借り受けた美術品等を他国に差し押さえられることを防ぐもので、主催団体が日本政府に適用

申請し、文部科学省及び外務省がこれを協議した後、文部科学大臣が当該文物の保護対象及び

期間を指定し、強制執行の免除及び、それにより文物が第三者

による差し押さえ又は処分を免れることになる

*この法案は海外から借り受けた美術品がわが国の主権の範囲内にある場合は強制執行を禁止すると規定されたものです。

この法、台湾の「司法免扣押

(司法による差し押さえ請求の免除)」の條款は、文物について

所有権争議のある国家が、関連する文物を海外で展示する際、

司法による追訴あるいは差し押さえを受けることはない。と同

展覧会における美術品損害の補償に関する法律案

(内閣提出)

議案審議

提出日 平成二年一〇月二九日

○参議院文教科学委員会経過

平成三年三月二十四日 修正。

○参議院本会議経過

平成三年三月二十五日

押しボタン、全会一致で修正議決。

○衆議院文部科学委員会経過

平成三年三月二十五日 可決

○衆議院本会議経過

平成三年二月二十九日

異議の有無、全会一致で可決。

議案要旨

(参議院文教科学委員会)

*展覧会における美術品損害の補償に関する法律案(第百七十六回国会閣法第十四号)(衆議院

送付)(本院継続審査)要旨

本法律案は、国民が美術品を鑑賞する機会の拡大に資する展覧会の開催を支援するため、その主催者が天来会のために借り受けた美術品に損害が生じた場合に、政府が当該損害を補償する制度を創設するものであり、その主な内容は次のとおりである。

一、美術品の損害につき、政府が補償契約を締結できることを定めること。

二、対象となる展覧会は、国民が美術品を鑑賞する機会の拡大に資するものとして文部科学省令で定める規模、内容その他の要件に該当するものであることとする。

三、対象となる展覧会の主催者は、当該展覧会を適格かつ円滑に実施するために必要な経理的基礎及び技能を有する者であることとする。

四、損害総額の一定部分は主

催者が負担し、それを超える部分を政府が補償すること。ただし、政府の補償分については、上限額を定めること。

五、毎年度の補償契約の締結の限度額を予算で定めること。

六、文化審議会の意見を聴いて、対象となる展覧会を決定すること。

七、この法律案は、平成二十三年四月一日から施行すること。

なお、本法律案については、衆議院において、学術的・文化的に価値が高い展覧会が、大都市に限らず全国的な広がりの中で開催できるよう政府は配慮するとともに、施行後三年を目途として、本法律の施行の状況等を勘案し、必要があると認めるときは、所要の措置を行うものとする修正が行われた。

*展覧会における美術品損害の補償に関する法律案委員会修正要旨

施行期日を「平成二十三年四月一日」から「公布の日から起算して二月を超えない範囲内において政令で定める日」に改めるとともに、「所要の規定の整理を行うものとする」こと。

海外の美術品等の我が国における公開の促進に関する法律案 (衆法)

議案審議

提出日 平成二十三年三月九日

提出者 衆議院文部科学委員長

委員長発議

○衆議院本会議経過

平成二十三年三月十日

異議の有無、全会一致で可決。

○参議院文教科学委員会経過

平成二十三年三月二十四日 可決。

○参議院本会議経過

平成二十三年三月二十五日

押しボタン、全会一致で可決。

議案要旨

(参議院文教科学委員会)

海外の美術品等の我が国における公開の促進に関する法律案

(衆第一号)(衆議院提出)要旨

本法律案は、海外の美術品等の我が国における公開の促進を図るため、海外の美術品等に対する強制執行等の禁止の措置を定めるとともに、国の美術館等の施設の整備及び充実等について定めることにより、国民が世界の多様な文化に接する機会の増大を図ろうとするものであり、その内容は次のとおりである。

一、我が国において公開される海外の美術品等のうち、国際文化交流の振興の観点から我が国における公開の円滑化を図る必要性が高いと認められることその他の政令で定める要件に該当するものとして文部科学大臣が外務大臣と協議の上で指定したものに

に対しては、強制執行等を行うことができないこととする。

二、国は、海外の美術品等の我が国における公開を促進するため、国の美術館等の施設の整備及び充実並びに当該施設における鑑賞の機会の充実のために必要な施策を講ずるものとする。

三、国は、海外の美術品等に関する専門的知識を有する学芸員等の養成及びその資質の向上、民間団体が海外の美術品等の公開に関して行う活動に対する情報提供等の支援その他必要な施策を講ずるものとする。

四、国は、海外の美術品等の我が国における公開を促進するために必要な財政上の措置その他の措置を講ずるよう努めるものとする。

ること。

五、この法律は、公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日から施行すること。

文教科学委員会議事録抜粋

平成二十三年三月二十四日

提出者 田中真紀子衆議院文部科学委員長の趣旨説明。

美術品等の展覧会は、あらゆる世代の国民に優れた芸術作品や貴重な文化遺産に接する機会を提供する、極めて教育的・文化的意義を有するものであります。特に海外の美術品等の展覧会は、その国の歴史や文化の理解に役立つものであり、国際文化交流の振興の観点からも、海外の美術品等を借りやすくし、多様な海外の美術品等の展覧会が開催できるようにすることが求められております。……何とぞご賛同くださいますようお願い申し上げます。

昨年臨時国会でこの法案提案代表者・古屋圭司衆議院議員

世界にはいろんな美術品がございます、そういったものが無条件に多くの国民に触れる機会があるかという、必ずしもそうではありません。なぜか。それは、そういった美術品は例えば世界の紛争あるいはいろんなトラブル等々によって所有権がはっきりしないままその美術品等が移行しているというケースがあるからであります。

オーナーが、海外に貸出たときに強制執行される危険性があるため貸出を躊躇する、そういうことがあって、やはり我が国の主権の範囲内にある間はそういった強制執行が一切できないようにするという法律が必要である。一昨年制定された主権免除法は世界のあらゆる美術品が対象になります。国あるいは政府の機関が持っているものは強

制執行ができなくなりました。

しかしながら、国並びに政府以外のものについては対象になっておりません。ということ、

世界の国営、国が所有している以外のあらゆる美術品を対象とするという法案を作ったというのが背景であり趣旨であります。

例えば台湾、台湾は御承知のように国ではございません、というところで、台湾の故宮博物院に所蔵されている美術品も対象になるということであり、

この法案が出来ることによつて、この法案の趣旨であります多様な文化に接する機会を我々が提供していくということにならざるというふうに確信をいたしております。

なぜ外務大臣と文部大臣が事前協定をするのか、芸術文化振興は文部科学大臣が所掌。外交に関することは外務大臣が所掌いたしております。例えば台湾は国として認めておりません、

世界も地域としています。ゆめ間違つてもやはり外交問題にさせるというのはこの法案の目指すところではありません。

実は、この背景ですけれども、私も何度か台湾にも訪問しました。そして台湾の故宮博物院というのは、実は院長は閣僚がなっています。大変重要な組織であります。歴史的背景を見ると、あのいわゆる当時の国民党を支持していた蒋介石氏が台湾に移つた時に一緒に持ってきたというものでありますから、厳密に言うところこの国の所有だということとは問題になることは事実であります。しかし、現実として台湾という地域に今それは所蔵されているということ、

から、もし仮にこの台湾の故宮博物院に所蔵されている美術品を日本に展示をするということであるならば、事前に文部科学大臣と外務大臣がしっかりと協議をしていただいて、そしてその

上で、外交問題にはならないということ、協議をしていただきたらこの法律のルールに基づきまして指定をして、そしてこの台湾の故宮博物院の美術品がこちらに持ち込むことができる。

あるいは、それだけに限りませ。例えば、海外の有力な私人が持っている美術品等々はあると思ひます。

水落敏栄参議院議員

私も台湾に、台北にございます故宮博物院の美術品、拝見しておりますけれども、あの故宮の美術品が我が国で展示されることになれば本当にすばらしいことであるし、また我が国と台湾との友好関係が一層一段と深まると、このように確信するものであります。この法案について大変御苦勞をいただきました関係各位に改めて感謝申し上げます。

社団法人亜東親善協会顧問

(五十音順・敬称略)

若林 正俊	山本 順三	山内 俊夫	村田 吉隆	松本 洋平	船田 元	林 幹雄	西村 真悟	中井 洽	田名部 匡省	高市 早苗	山東 昭子	坂本 剛二	岸 信夫	金子 恭之	奥野 信亮	遠藤 利明	魚住 裕一郎	石破 茂	麻生 太郎	安倍 晋三
鷺尾 英一郎	吉川 貴盛	山崎 正昭	森 喜朗	水野 賢一	古屋 圭司	平沢 勝栄	萩生 田光一	長島 昭久	谷川 秀善	高木 美智代	島尻 安伊子	笹川 堯	北村 茂男	亀井 久興	奥村 展三	大江 康弘	白井 日出男	泉 信也	新井 悦二	愛知 和男
渡辺 博道	吉田 六左工門	山根 隆治	矢野 哲朗	宮路 和明	前原 誠司	平田 健二	鳩山 邦夫	長勢 甚遠	谷川 弥一	高島 修一	下地 幹郎	佐藤 昭郎	小池 百合子	亀岡 偉民	嘉数 知賢	大野 松茂	内山 晃	岩城 光英	井上 信治	赤池 誠章
渡部 篤	吉村 剛太郎	山本 明彦	谷津 義男	村上 誠一郎	松下 新平	平沼 赳夫	浜 四津敏子	中村 喜四郎	鶴保 庸介	棚橋 泰文	世耕 弘成	佐藤 剛男	小島 敏男	神取 忍	金子 善次郎	大野 功統	江崎 洋一郎	岩屋 毅	伊藤 公介	秋元 司

社団法人亜東親善協会顧問 (順不同・敬称略)

馮 林 楊 羅	寄 錦 作 王	台 清 洲 明珠	中田 小田 李 謝	宏 村四郎 海天 文	嶋中 黄 李 橘	篤 清 瑞 康	齋 林 鄭	籐 瑞 尊	毅 祥 仁	劉 長 李	東 尾 純	光 孝 京
---------	---------	----------	-----------	------------	----------	---------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

社団法人亜東親善協会役員名簿

[会 長]	玉澤 徳一郎			
[副 会 長]	池田 偵一郎	張 建 國	張 碧 華	大江 康弘
[専務理事]	崎谷 秀彦			
[事務局長]	南部 晴彦			
[総務担当]	仲谷 俊郎	[組織担当]	益山 茂	[財務担当] 赤松 則宏
[事業担当]	小松 省二	[国会担当]	橋本 靖男	
[理 事]	千葉 健司	東 達夫	新井 秀子	李ハロルド 松永理恵子
	多 忠和	三浦 信行	並木 正芳	伊野 雅晴
[監 事]	荘司 隆一	藤山 雅康		
[支 部 長]				

[青森県]大見光男 [岩手県]高橋義麿 [茨城県]石川多門 [広島県]月村俊雄

【お知らせ】

○平成二三年亜東親善協会通常総会（二階・サファイアの間）

第四十回通常総会 五月一二日（木曜日）午後四時～午後四時四五分
ホテル・ルポール麹町 千代田区平河町二―四―三 電 三二六五―五三六一

○講演会（二階・サファイアの間）

五月一三日（木曜日）午後五時～午後五時四五分

○懇親会（二階・ルビーの間）講演会終了後、懇親会を開催致します

五月一三日（木曜日）午後六時～午後七時三〇分（会費一万円）
当日、東日本大震災の救援活動を行いたく存じます。

○社会見学会はバス利用での日帰りツアーです。訪問先等御希望あれば

事務局までご連絡お願いいたします（七月乃至九月を予定しています）

○本年は中華民国建国百周年です。國慶双十節には、協会も奉祝訪台団を企画しています。十月九日～十一日（二泊三日）中華航空（羽田）利用

最少催行員数・十名。募集締め切りは七月末日。添乗員の有無を検討中。

【編集後記】季刊「亜東」春季号

去る三月十一日に発生した大震災に被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。地震直後に救援隊の派遣を打診された台湾政府に感謝申し上げます。また台湾国内で馬英九總統始め官民一体となり、義援金の募集及び救援物資の寄付活動が行われました。同じ価値観を持ち、信頼関係が強い友人の温かい声援（日本・加油）に重ねて感謝申し上げます。多謝。

○会員各位の御寄稿等、多数のご投稿お待ちしております。

○協会の活性化の為、会員の拡充を図っています。通常総会・社会見学会等会員各位のご紹介により、多くのご参加を期待致しております。

【年会費】①法人五万円以上。②賛助会員三万円。③個人一万円。

表題【亜東】は中華民国總統馬英九閣下の御揮毫です

季刊 **亜東**（アジアの架け橋）平成23年 春季号（No.37）

発行日 : 平成23年4月15日

発行所 : 社団法人亜東親善協会

編集人 : 南部晴彦

所在地 : 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-5 砂防会館4階

Tel:03-3261-6405 Fax:03-3556-5770

H P : <http://homepage3.nifty.com/atousinzen>

印刷 : ヨシダ印刷株式会社



私たちは、
「旅を咲かせる、花の翼」です。

